

【身近なワンヘルスの取組】

私たちのグループは、ワンヘルスの重要なポイントである、人獣共通感染症に注目し、「動物に触れる前と後は手を洗おう」という取り組みを提案します。

提案の理由として、ヒトと動物は「触れる」ことによって共通の病気にかかる可能性があります。それを自分事として捉えられていないのではないのでしょうか。

このためもっとも身近な「手洗い」から病気を知るきっかけを作りたいと考えたからです。

グループの話し合いの中で、ペットや野生動物などがワンヘルスと深く関わっている気づきがありました。

また私自身がペットの猫と共に白癬菌に感染する経験をしており、予防の大切さを実感していたところです。

今回提案の「手を洗おう」という取り組みは、誰でも、手軽にできる、予防の基本の行動です。

この行動が、身近な動物の習性や、感染症の予防方法を知り、「お互いを守ること」の出発点になってほしいと考えています。

【県民への伝え方】

この取り組みは、従来のポスター掲示やチラシの配布・回覧と、それに加えて、インターネット（SNS）を積極的に活用します。その中でも、ポスターの掲示は動物ふれあい施設はもちろん、人の通う医療施設やみんなが集う学校や公民館など、今までにない場所を選定したり、SNSでは通常の画像だけでなく、ショートドラマ形式にしたりして、また見たくなるような動画を投稿します。

【期待される効果】

ヒトと動物の命を守るには、まず、人獣共通の病気があることを知る必要があります。私たちヒトと、すべての動物は病気にかかる原因を持っている可能性があります。それを知らずにお互いが触れ合うと、病気をうつしあってしまうことや、かからずとも運んでしまう可能性が考えられます。病気を知り、動物に触れる前も後も手を洗うことが、ヒトと動物の命を守ることに繋がります。

また共通の感染症には、死に至る恐ろしい感染症もありますが、ワクチン接種などの適切な予防対策によって感染を防ぐことができます。

ヒトと動物の共通の病気を知ること、私たちの行動が変わり、ヒトと動物の命を守ることに繋がります。

以上のことから、「動物に触れる前と後は手を洗おう」という取り組みを提案させていただきます。